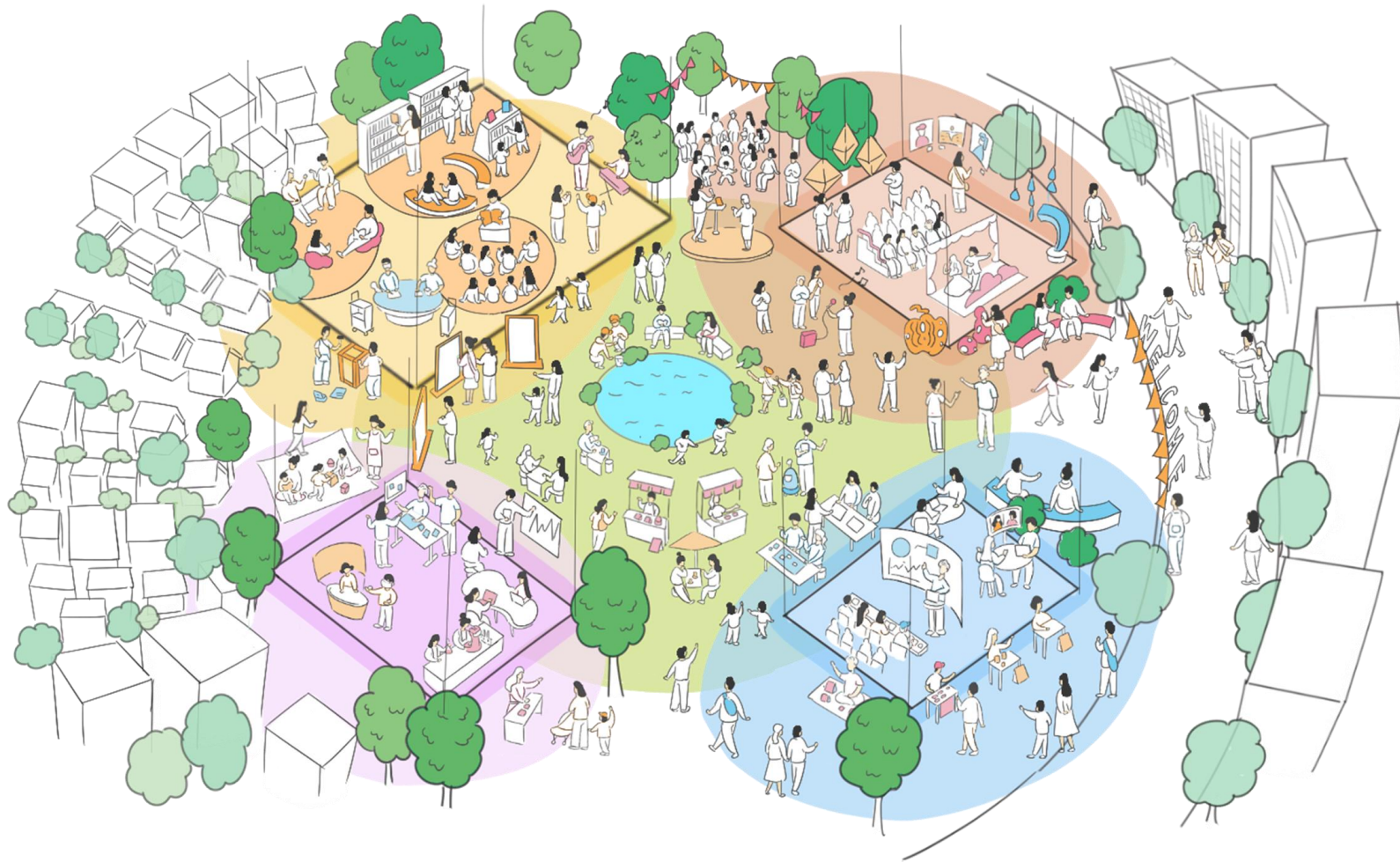


神宮前五丁目地区まちづくり方針



令和7(2025)年4月

東京都

「神宮前五丁目地区まちづくり方針」の策定にあたって

東京が首都として日本の成長を牽引するためには、歴史・伝統、まちなみ・景観など地域の個性を生かしたまちづくりを進め、魅力と活力あふれる多様な拠点を形成していくことが大切です。

当地区の周辺は、明治期から大学が設立されるなど文教地区として発展し、また、当地区内にある旧こどもの城は、次代を担う子供たちが心身ともに健やかに成長していくための役割を担ってきました。人々の成長に寄り添ってきた歴史があります。

また、渋谷と表参道の結節点として、賑わいが形成され多様な人が行き交う一方で、大通りから少し入ると閑静な住宅街が広がっています。個性あるまちなみが形づくられている地区でもあります。

こうした地域の特徴を踏まえ、新たな智を生み出す「創造・交流図書館」を軸に、「子供をはじめ、誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』」の形成に取り組めます。

いつの時代も、成長の原動力は「人」です。この地区を、子供をはじめとした誰もが集い、交流し、成長することができる場にしていくことで、「人」への投資を一段と加速させ、「人」の力を高め、引き出し、一人ひとりが主役になる社会の創出につなげてまいります。



令和7（2025）年4月

東京都知事

小池百合子

1. まちづくり方針策定の背景と位置付け

(1) 背景・経緯	1
(2) まちづくり方針の位置付け	2
(3) まちづくり方針の対象区域	2

2. 神宮前五丁目地区の将来像

(1) 神宮前エリアの地域特性	3
(2) 当地区の現状	4
(3) コロナ禍を経た当地区でのまちづくりの捉え方	5
(4) 当地区でのまちづくりにおける重要な視点	6
(5) 将来像	7

3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

(1) 将来像実現に向けた導入機能	8
(2) 各導入機能のイメージ	10
(3) まちづくりを行う上での配慮事項	15

4. 「智の創造拠点」として持続的な価値の維持向上を図るための取組（官民連携）

1. まちづくり方針策定の背景と位置付け

(1) 背景・経緯

都は、渋谷駅から表参道につながる青山通りの沿道に位置する旧こどもの城について、誰もが利用できる複合拠点「都民の城（仮称）」として活用するため、「都民の城（仮称）改修基本計画」（令和2（2020）年2月）を策定した。

「都民の城（仮称）改修基本計画」では、「遊び・学び・仕事を通じて、子供をはじめとした都民が交流し、成長できる場」をコンセプトとして、旧こどもの城を当面の間利用するとともに、長期的には、周辺都有地との一体利用により、「都心部に残された東京の成長を支える重要な用地」として活用案を描くこととしていた。

その後、コロナ禍を経て都民の生活意識、行動及び求められる行政ニーズも変化し、加えて経済面等の効率性や都有財産の有効活用の観点から、令和4（2022）年5月に本計画の実施は見送り、都民の城（仮称）が目指す理念を生かしつつ、ポストコロナのまちづくりのモデルケースとするため、「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」を設置し、都有地の一体活用に向けた具体的なまちづくりの検討を行い、将来像を示す。

1. まちづくり方針策定の背景と位置付け

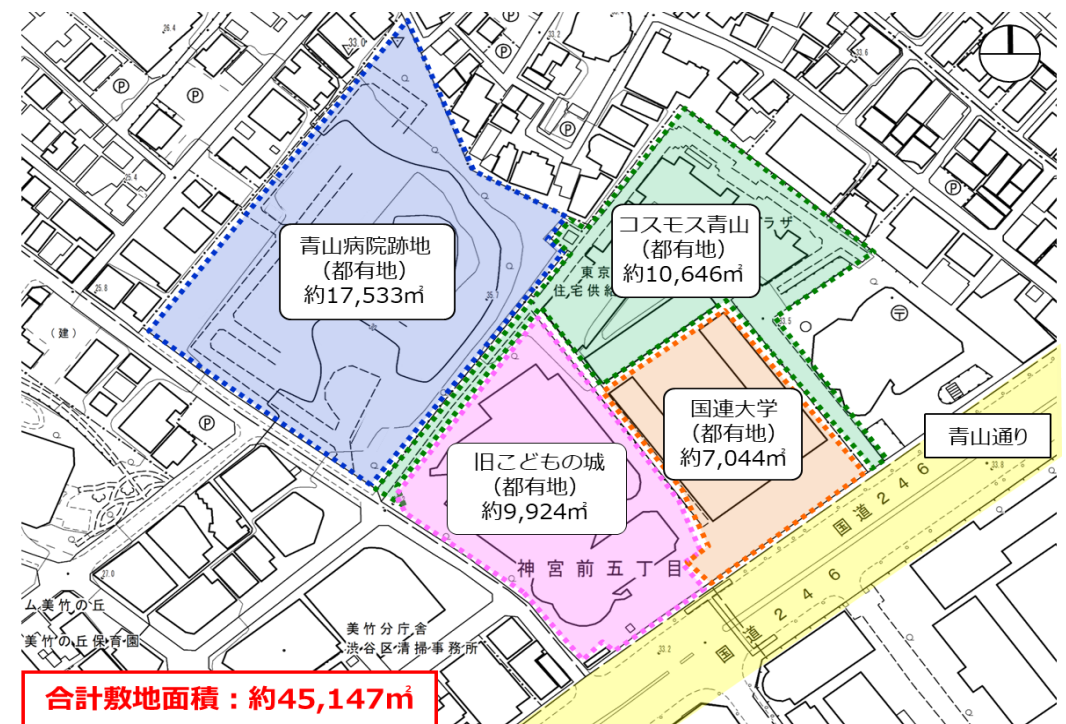
(2) まちづくり方針の位置付け

「神宮前五丁目地区まちづくり方針」（以下「本方針」という。）は、旧こどもの城の敷地及び周辺所有地の歴史、変遷並びに「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」等での意見を参考に、都として、神宮前五丁目地区のまちづくりの将来像や進め方を示すものである。

今後、本方針に基づき、すべての「人」が輝き、一人ひとりが幸せを実感できるような「成長」と「成熟」が両立した「世界で一番の都市・東京」の実現にも寄与しながら、当地区のまちづくりを推進していく。

(3) まちづくり方針の対象区域

本方針は、青山通りに面した旧こどもの城と周辺の所有地である青山病院跡地、コスモス青山敷地及び国連大学敷地を合わせた約4.5haの土地（以下「神宮前五丁目地区」又は「当地区」という。）を対象とする。

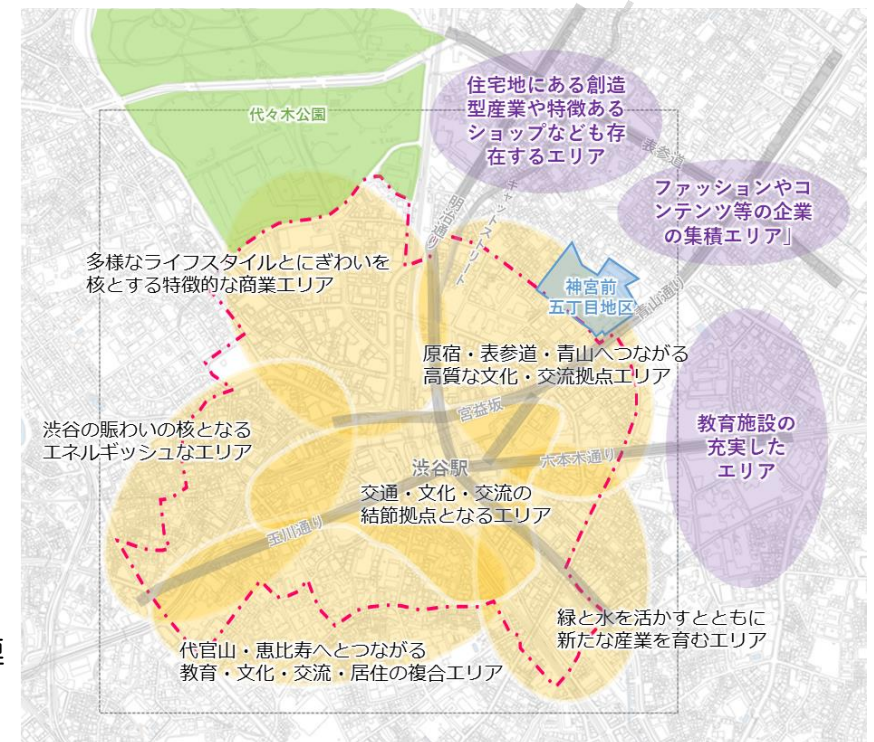


この地図は、国土地理院長の承認（平29関公第444号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（6都市基交第1785号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。

2. 神宮前五丁目地区の将来像

(1) 神宮前エリアの地域特性

- 当地区を含む渋谷駅周辺エリアでは、渋谷駅中心部の整備と同時に、中心部との相乗効果を発揮する開発が周辺部でも進行している。渋谷の特性である周辺に広がるエリアごとの個性・特性を生かし、多様な価値観を持つ渋谷の強みを更に向上させるとともに、クリエイティブ・コンテンツ産業拠点、都市型観光拠点等の整備推進、世界に向けた渋谷文化の発信機能の強化等、周辺部の国際競争力の強化が計画されている。その中において当地区は、渋谷駅から原宿・表参道・青山へとつながるエリアに位置しており、周辺には芸術・文化・娯楽に触れられる文化・交流施設が集積している。
- エンターテインメントなどの先進的な文化が国内外へ発信されている。
- 渋谷駅と表参道をつなぐ青山通り沿道は、商業機能によるにぎわいが形成されており、両エリアの結節点として多様な人が行き交う一方、当地区の後背には独立住宅を中心とした住宅街が広がり、閑静な環境を形成している。
- 当地区周辺には、スタートアップ企業や創業支援施設が集積し、スタートアップが生まれるための環境、土壌、育つ環境もあり、芽が出た段階から実を結ぶための一気通貫で成長していけるための土台が備わっている。
- 当地区の周辺では、明治期に青山学院大学が設立されたことが文教地域としての発展の契機となり、現在に至るまで実践女子学園、國學院大学、渋谷教育学園中学校・高等学校、プリティッシュスクール、子供の健全な育成に重要な役割を担ってきた旧こどもの城（平成27（2015）年閉館）及び国連大学があるなど、多様な教育機関が文教地域を形成しており、次世代を担う若者が学び、創り、遊び、発信する土壌を兼ね備えたエリアとなっている。



(※) ベース図は国土地理院の基盤地図情報を使用

<渋谷駅周辺エリア、神宮前エリアの地域特性>

文化・交流、教育施設等が集積し、渋谷と表参道などとの結節点として、多様な人が行き交うまち

2. 神宮前五丁目地区の将来像

(2) 当地区の現状

- 旧こどもの城（平成27（2015）年閉館）は、多彩な遊びのプログラムを実践するなど、次代を担う子供たちが心身ともに健やかに成長していくための重要な役割を担ってきた。また、旧こどもの城には、「国内外の質の高い舞台芸術に親しめる機会の提供」及び「文化芸術活動への参加・交流の場」により、大人も子供も楽しめる舞台芸術の地として、これまで多くの人に親しまれてきた青山劇場・円形劇場があった。
- 国連大学は、グローバルなシンクタンクであり、SDGs課題解決のための研究や教育を実施している。
- コスモス青山では、ビジネス・文化・社会活動の交流をテーマに、商業施設の他に、起業支援施設や女性活躍支援施設などが入居している。

<神宮前五丁目地区の現状・特性・歴史>

子供、文化、女性活躍、スタートアップ、国際交流など様々な機能が個々に効果を発揮してきた。

2. 神宮前五丁目地区の将来像

(3) コロナ禍を経た当地区でのまちづくりの捉え方

令和4（2022）年5月、神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議において、ポストコロナのまちづくりについて3つの視点（※）が整理された。その後、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行された。

こうしたコロナ禍を経た社会環境の変化と時間の経過により、都民の生活環境等にも以下のような大きな変化があったため、当地区でのまちづくりの捉え方について更に検討を深め、整理した。

- コロナ禍における社会経済活動の制限、外出や移動の自粛、混雑や密の解消等に起因し、テレワークやリモート会議の普及などデジタル技術を活用したオンラインによるコミュニケーションが進展した。一方で、コロナ禍を経験した子供は対面でのコミュニケーションが苦手な傾向にある。
- 人々が集まって過ごす時間の大切さや居心地の良さといったリアルな体験価値の重要性を再認識するなど、都民の生活意識及び行動様式並びに企業活動は大きく変化した。
- 今後のまちづくりにおいては、こうした価値観の変化、多様なライフスタイルにも対応した「人間中心社会」の実現が求められるようになった。

※ 有識者会議の提言（令和4（2022）年5月）（ポストコロナのまちづくりの視点）

視点

①

Well-being

人々のウェルビーイングに着目したまちづくり

- ウェルネス、ウェルビーイング、「量だけでなく質」などの新たな志向に配慮
- 大都市における集積の考え方を整理し、ポストコロナにふさわしい公共空間整備を推進

視点

②

Open & Flexible

将来の不確実性や、多様性等の社会ニーズを受け止められるような設えや仕組みづくり

- 技術進化や社会ニーズの変化、平時・非常時に応じて、機能や設備が入れ替えられる空間の柔軟性や可変性を確保

視点

③

Virtual & Real

リアルとバーチャルのハイブリッドによる新しい日常の創造

- バーチャルをいかしたまちづくりと、地域の即地性・固有性（風土・歴史・文化等）をいかしたまちづくりの両立

2. 神宮前五丁目地区の将来像

コロナ禍を経た当地区でのまちづくりの捉え方の視点

当地区のまちづくりは、こうした視点を踏まえ、人と人が出会い、交流するリアルな場を創り、文化やエンターテインメント、自然の豊かさなど、オンラインでは代替しがたい「楽しさ」、「美しさ」を存分に享受し、誰もが自己実現を図ることができる場所としていく。

そのような場所とするため、リアルの体験に価値を見出しつつ、最先端のデジタル技術や仕組みを活用することで、生活の質や満足度向上に向けて一人一人が多様な選択をすることができる居場所（日常的な時間軸での変化を受け止めるフレキシブルな空間を形成）を提供し、ウェルビーイングの向上に取り組んでいく。

（４）当地区でのまちづくりにおける重要な視点

当地区では、旧こどもの城が「子供の健全な育成」に重要な役割を担ってきた歴史や、女性活躍、スタートアップ支援など、人への投資に係る支援を行う多様な機能が個々に効果を発揮している現状を踏まえ、旧こどもの城の理念を生かしつつ、多様な機能の複合化・集積化による相乗効果により、子供をはじめ誰にとっても魅力的な場となるようなまちづくりを進めていくことが重要である。

また、当地区は都心の一等地として、ポテンシャルを引き出しながら都の重要な政策実現に活用していく観点から、時代の変化や多様化するニーズにも応じた活用を図っていくことが重要である。

以上を踏まえ、当地区の将来像を導き出すに当たり、考慮すべき視点を整理する。

<神宮前五丁目地区でのまちづくりにおける重要な視点>

- ・ 旧こどもの城の担ってきた、子供の創造性、健やかな心と身体、子供同士の連帯感や社会性を育むという理念を生かしていく。
- ・ 様々な機能の複合化・集積化による相乗効果で、魅力的な場を創出
- ・ 時間軸を加味した利用やニーズを想定し、柔軟に対応できるマネジメント体制の構築

2. 神宮前五丁目地区の将来像

(5) 将来像

文化・交流・教育施設等が集積する地域特性や、子供・国際交流・女性・スタートアップなど、様々な支援等に係る機能が個々に効果を発揮してきた地区の現状、また、コロナ禍を経たまちづくりの捉え方の視点等を踏まえ、当地区では、「人への投資」を一層加速させ、「人」の力を高め、引き出し、一人ひとりが主役になる社会の創出につながるまちづくりを進めていく。

旧こどもの城が担ってきた「子供の健全な育成」という役割を踏まえ、子供・若者が希望を持って自ら伸び、育ち、未来を創造できる場へと発展させていく。

また、青山劇場・円形劇場の芸術文化の創造、発信地であった歴史等を踏まえ、多様な人々の感性を育み新たな価値の発見をもたらす環境づくりを進め、芸術文化で躍動する都市東京の実現に寄与していく。

当地区では、こうした基本的な考え方を踏まえ、以下のとおり将来像を設定し、将来像の実現を通して、誰もが将来の夢や希望を叶え、一人ひとりがもっと輝く東京の実現に寄与していく。

将来像

誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」

- ・機能間の連携により、子供をはじめとした多様な人々の交流や創造活動が、新たな文化・アイデアの創造、個々人の成長につながる場
- ・多様な過ごし方を選択でき、心の豊かさを実感できる、憩いと交流の場

<「智」の趣旨>

「知」で意味する“知識の習得・情報の収集”にとどまらず、それをどのように使うのか、活用するのかという意味を含む「さといの『智』」とすることにより、多様な人々が創造・交流活動等を通じて、深い理解や洞察を得る能力、知識を実際の状況で応用する能力を高められるという趣旨で、「『智』の創造拠点」とする。

「智の創造拠点」では、受動的だけではなく、能動的な活動を誘発する環境を整備することで、一人一人が心の豊かさを実感でき、自己実現が図れる場を目指していく。

3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

(1) 将来像実現に向けた導入機能

将来像を実現していくに当たり、「当地区全体で役割を果たす機能」及び「軸となる機能」を設け、導入する各機能を相互に連携させ、相乗効果を発揮させていく。

「当地区全体で役割を果たす機能」としては、文化・交流・教育施設等が集積し、多様な人が行き交う当地区の特性や、旧こどもの城が次代を担う子供たちが心身ともに健やかに成長していくために重要な役割を担ってきたことを踏まえ、“創造・交流機能”や“こどもの体験機会創出機能”とする。

「軸となる機能」としては、人々の交流拠点やコミュニティの核となり、創作活動の場やインスピレーションを得る場として新たな価値や機能を提供する“創造・交流図書館機能”とする。

「各機能」としては、様々な人の成長を支えるために、これまで個々に効果を発揮してきた文化、女性活躍、スタートアップ、国際交流などの機能とする。

なお、持続的な発展を図っていくため、導入機能は時代のニーズ等に応じて柔軟に変化していくことも想定している。

<導入機能>

① 当地区全体で役割を果たす機能

創造・交流機能

訪れる人の知識、創造性及び好奇心を育むとともに、人々の活動・交流の受け皿となり、人々の個性や可能性を開く。

こどもの体験機会創出機能

乳幼児から中高生まで、子供の興味・関心に応じて多様な体験ができる場を創出することで、子供の将来の可能性を広げるとともに、子供を育てる親にも親同士の交流機会や憩いの空間を提供

② 軸となる機能

創造・交流図書館機能

今までの枠組みを超えた創造・交流図書館を軸として、その他の導入機能と連携し相乗効果を発揮しながら、まちの将来像を実現していく。

※創造・交流図書館（都立中央図書館）を当地区に設置

3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

③ 各機能

劇場機能

芸術文化に触れることで、多様な人々の感性を育むとともに、「創造・交流図書館機能」等との相乗効果により、新たな価値の発見をもたらす。

女性活躍支援機能

女性のキャリアアップや活躍の基盤づくりを後押しするとともに、その知見を活用し新たな価値を創出・発信

起業支援機能

優れたアイデアを持つスタートアップへの育成支援に加え、アントレプレナーシップ教育などにより、多様な人々の好奇心喚起・創造意欲を創出

国連大学

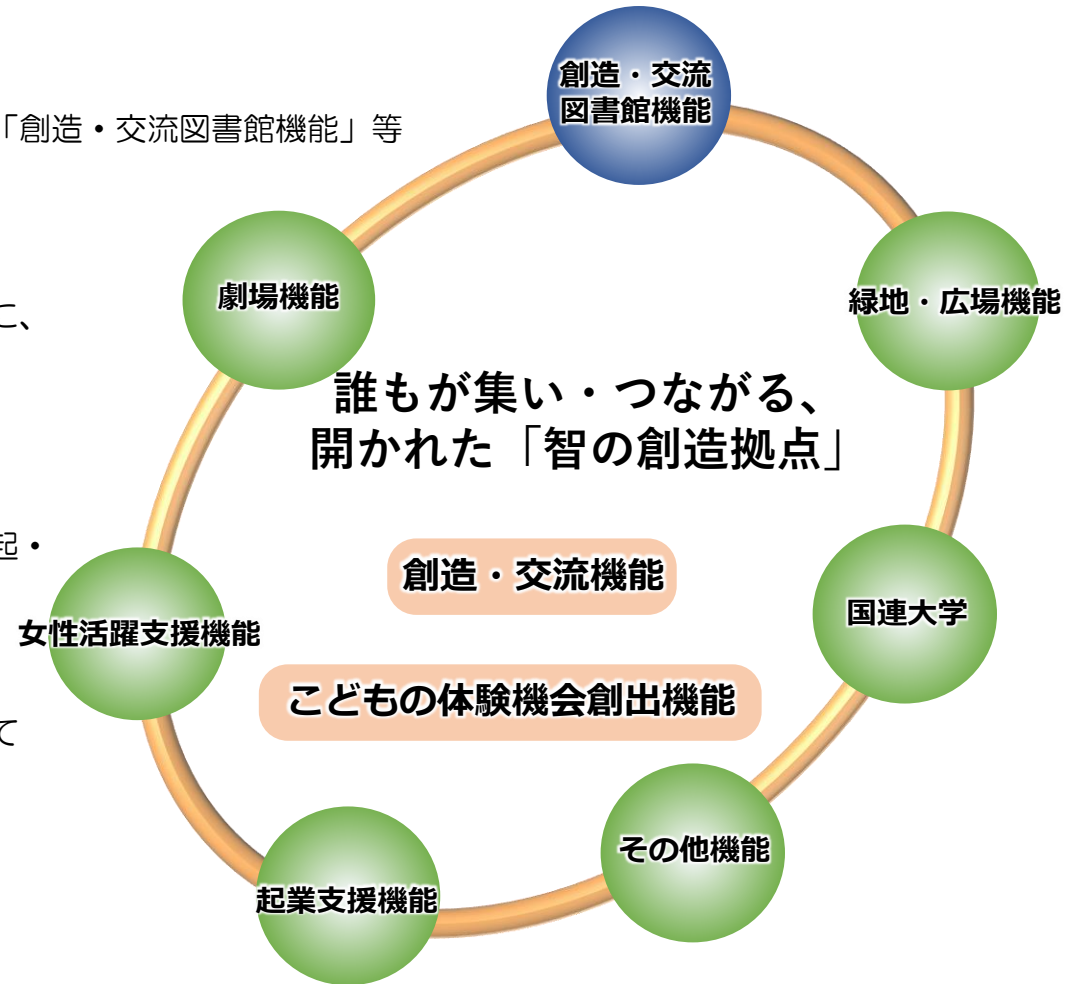
SDGsなど様々な国際課題解決のための研究や教育を実施している国連大学と協力・連携することで、誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」を共創

緑地・広場機能

居心地の良い空間で各機能や人と人がつながることで創造・交流活動を誘発

その他機能

その他、将来像実現のために必要な機能（例：青山通り沿いのにぎわい創出に寄与する商業機能、地域特性を生かした業務機能等）



○将来像実現に向けた既存施設の扱い

4敷地を一体的に活用することで、当地区の効用を最大限発揮させ、都の政策実現を図るとともに、地域のニーズや周辺まちづくりに貢献するため、旧こどもの城及びコスモス青山は、将来像である「誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』」に再構築

3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

(2) 各導入機能のイメージ

①当地区全体で役割を果たす機能

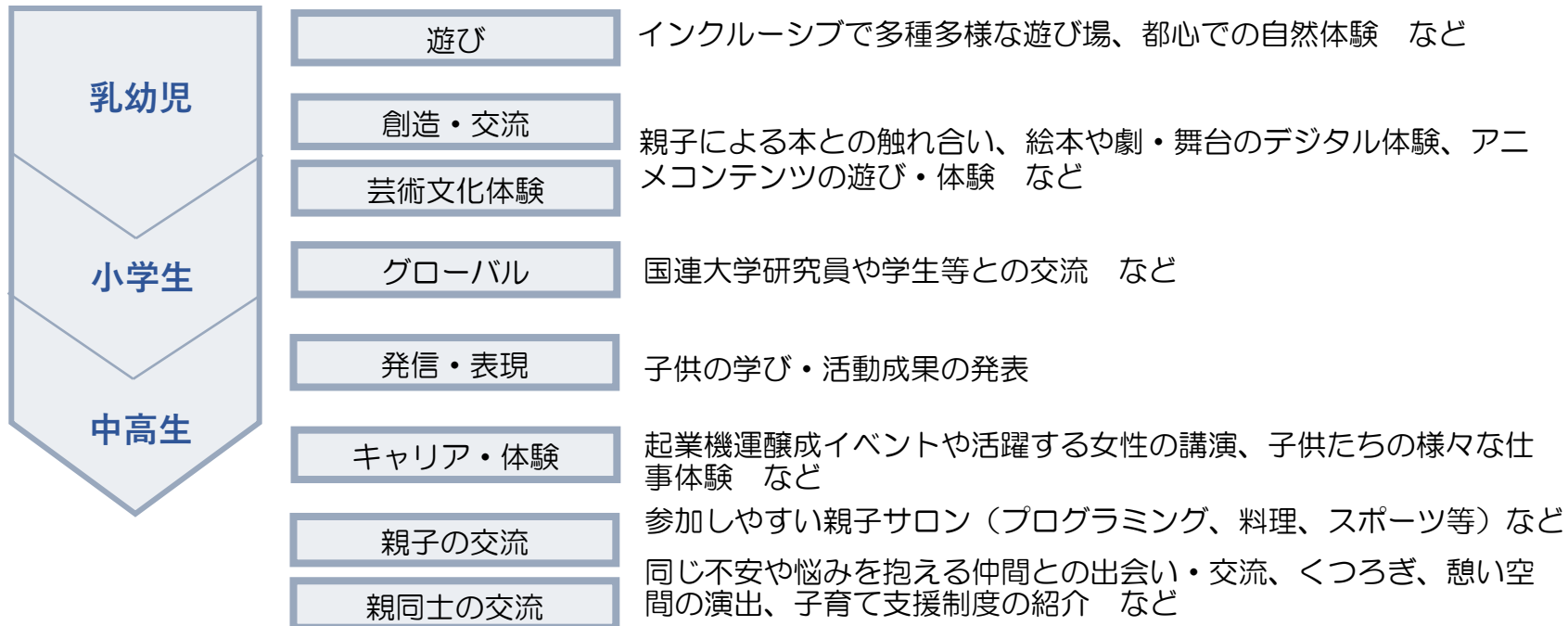
■ 創造・交流機能

- 訪れる人の知識、創造性及び好奇心を育むとともに、人々の活動・交流の受け皿となり、人々の個性や可能性を開く。
- 訪れる人を含めたまちの担い手同士が交流でき、創造的な活動の発表や、知的好奇心を喚起する催し等も行うことができる空間を提供し、人々の智の創造・発信に貢献

■ こどもの体験機会創出機能

- 子供たちの初めて経験する時の「わくわく」、非日常を感じる「ときどき」を大切にしながら、乳幼児から中高生まで、各ステージに合わせ、子供目線に立ってシームレスに遊び・学び・体験する機会を創出
- 子供だけではなく、子供を育てる親にも親同士の交流機会や憩いの空間を提供
- 体験等を通じた子供・親の声などを、都の子供政策や子育て支援政策の充実に生かしていく。

<機能イメージ>



- 計画段階から、子供の意見を聴き、反映させるプロセスを導入

<イメージ> 計画段階における子供参加型ワークショップの開催
子供自身がプロジェクトマネジメントに関わり、まち全体の子供関連施策の運営に参画 など



3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

②軸となる機能

■ 創造・交流図書館機能

調査研究に役立つ図書館という都立中央図書館の従来の強みを生かしつつ、新たな智を創造する機会を提供する機能として、創造・交流図書館を当地区に導入

現在の中央図書館

- 江戸・東京に関する貴重資料などを含めた豊富な蔵書、充実したレファレンスサービス
- 閲覧中心の空間

世界の図書館の潮流

従来の閲覧提供機能に加え、文化的な対話の場、多様な学びの場、創作活動の場、インスピレーションを得る場など新たな価値や機能を提供

<コンセプト> 「Library for Creation (創造・交流図書館)」

- ・リアルな図書館の意義は、本から意外な発想や新たな発見を生むことにある。
- ・図書館を、新たな智を生み出す空間と捉える。
- ・静かに集中できる場と人々が創造・交流できる場を、つながりながらも緩やかに分け、多様なニーズに応じた過ごし方を可能にする。

<機能イメージ>

「知的好奇心を喚起し学びを深める」

- 子供や障害者など、多様な人々が気付きを得る体験をする。
- 所蔵資料を基にした学びや体験をする。

(例) 本の世界を五感で体験できる展示



「人々の創造や交流を生み出す」

- 多様な形で、人々が創造に取り組むことができる。
- 人々が交流し、気付きや思索のきっかけを得る。

(例) 読書ができるカフェやラウンジ、ミーティングスペースの設置



「多様な知を集積・発信」

- 活字の本、音楽、映像、人も含めた多様な形態の知が集まり、発信していく。

(例) 誰もが利用できる展示スペースや発表の場・機会の設定



- ・新たな智の創造につなげ、調査研究の支援という従来の強みを生かしたサービスを展開
⇒ 当該地区に集積予定の多様な機能と連携しながら、東京全体の智の向上を図る。

3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

③各機能

■ 劇場機能

多様な人々の感性を育むとともに、「創造・交流図書館機能」等との相乗効果により、新たな価値の発見をもたらす「劇場」を整備する。

<機能イメージ>

年齢や障害の有無などにかかわらず、多様な人々が芸術文化に触れ豊かな時間を過ごせる劇場

- かつてミュージカルを多く上演していた青山劇場と同様に、誰もが親しみやすいミュージカルや子供も楽しめる作品などを上演（参考：青山劇場は1,200席程度）
- アクセシビリティやデジタル技術など最新のニーズに対応 など



芸術文化に身近に触れて関心を深めてもらえる仕掛け

- エントランスロビーに再現された演劇の世界を体験できるスペース（訪れた人が能動的に参加できる場） など



劇場に関心のない人も気軽に訪れたい空間

- 誰でも使えるカフェ・レストラン など



「創造・交流図書館機能」等との相乗効果

- 「創造・交流図書館」等で上演作品と連動した展示 など

3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

■ 女性活躍支援機能

女性のキャリアアップや活躍の基盤づくりを後押しするとともに、その知見を活用し新たな価値を創出・発信することで、女性が個性や力を最大限発揮できる社会を実現

＜機能イメージ＞

- ・ 社外メンター等による学生や子供向け講座の開催
- ・ 若年層のキャリア意識形成のためのワークショップの開催 など



■ 起業支援機能

優れたアイデアを持つスタートアップへの育成支援に加え、アントレプレナーシップ教育などにより、多様な人々の好奇心喚起・創造意欲を創出

＜機能イメージ＞

- ・ 当地区の特性を生かし、子供等を対象としたアントレプレナーシップ醸成イベントの実施
- ・ 都が支援するスタートアップ企業の新技術の体験、発信の場 など



■ 国連大学

SDGsなど様々な国際課題解決のための研究や教育を実施している国連大学と協力・連携することで、「誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』」を共創（国連大学は、現在地において引き続きまちづくりに協力）

＜協力・連携の視点＞

- ◆ 国際交流
世界中から集まる研究者や学生と交流できる取組等を通じて、国際的な視野を醸成
- ◆ 学び
国連大学の知見を広く都民に還元できる取組等を通じて、知的好奇心を喚起



3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

■ 緑地・広場機能

各機能や人と人がつながり創造・交流活動が誘発されるとともに、人々が憩える空間を創出する。

(緑地・広場の整備の方向性)

憩い・創造・交流
空間の創出

- 様々な活動が受け止められる安全で居心地の良い憩い・創造・交流空間を創出する。

滞在・休息・交流できる
広場空間の創出

- 青山通り沿道のにぎわいを引き込む、人々が気軽に立ち寄り、滞在・休息・交流できる空間を創出
- 地区内の高低差等、既存の敷地の特性を踏まえ、後背地との調和も考慮した特色ある空間を創出

環境に配慮した
取組の実施

- グリーンインフラの導入（レインガーデン（雨水浸透）、屋上緑化など多層の緑空間など）や樹木の活用の検討などを行い、環境に配慮した取組を積極的に取り入れる。

地域防災力の向上に寄与

- 平常時の定期的な防災訓練や災害時の避難・滞在空間としての活用等、地域の防災力向上に寄与する広場空間を創出する。



各機能と連動したワークショップ
出典：「JINNAN MARKET HP」
<https://www.jinnanmarket.com/>

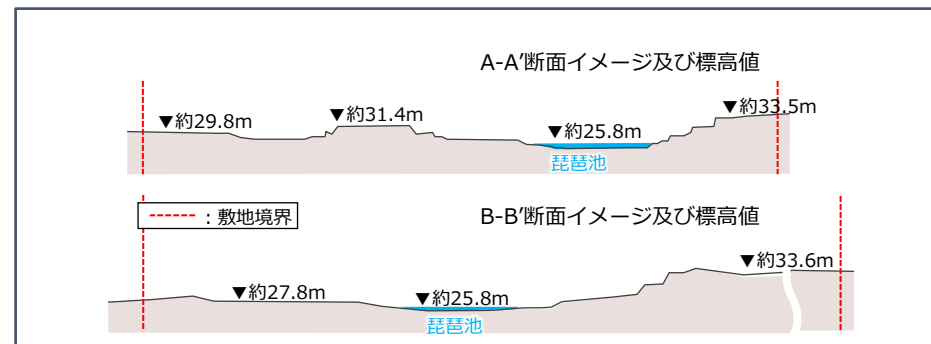
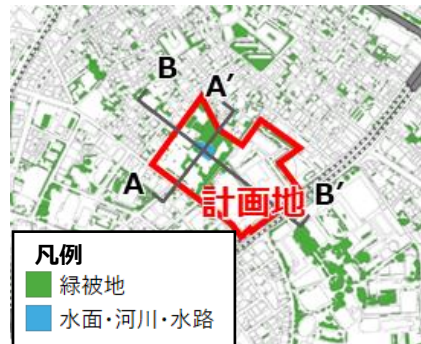


青山通り沿道のにぎわいを創出し
気軽に人々が立ち寄り交流
出典：「大丸有エリアマネジメント協会HP」
<https://ligare.jp/report/msp2023summer/>



誰もが憩える空間

地区内の地形



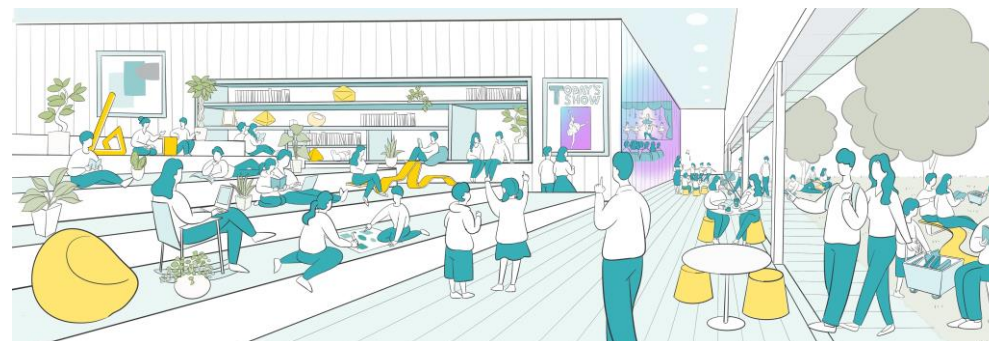
3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

(3) まちづくりを行う上での配慮事項

① 建築計画

- 創造・交流活動が誘発されるよう、空間的・機能的に柔軟な対応ができる余白にも考慮した計画とする。

※余白とは、特定の機能を持たず、人々の自由な発想で、自由に使われ得る可能性を有した場所などをいう。



創造・交流活動が誘発される余白のイメージ

- 時代の変化や多様化するニーズにも対応できるよう、冗長性・可変性も考慮した計画とする。

② 景観形成

計画地は渋谷駅から見ると高台に位置しており、渋谷駅を中心とした拠点エリアと青山通りを介して都心方面へとつながる中間地点の立地において、「誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』」として、人々が訪れたいくなるような空間形成を図っていく必要がある。景観の形成に必要な考え方を以下に示す。

<景観形成の考え方>

- 青山通り等から人を呼び込む誘引力や、渋谷から表参道等への回遊性にも配慮した魅力的な空間を、高低差等も踏まえ形成する。
- 青山通りや周辺道路から広場空間への視線の抜けに配慮する。
- 隣接するオープンスペースとの連続性に配慮する。
- 土地利用の特性に応じた照明により、エリア全体の夜間景観のメリハリに配慮する。
- 地区内の地形のメリットを生かした景観を形成する。



人の誘引イメージ

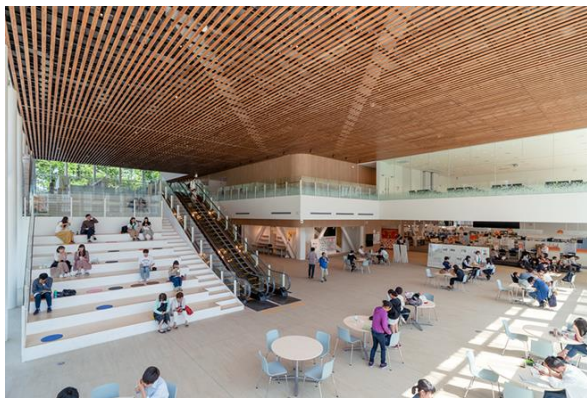
3. 神宮前五丁目地区の導入機能等

③環境配慮

当地区は、都心における約4.5haに及び広大な都有地を活用したまちづくりを行う。既存の緑等を活用しながら、先進的な技術等による環境配慮を実践しながら、時代の最先端のモデルとなるまちづくりを実施する。環境配慮の考え方を以下に示す。

<環境配慮の考え方>

- 環境に関する新たな技術開発の動向も見据え、先進的な技術を活用しながら、省エネルギー対策や再生可能エネルギー利用等によるカーボンマイナスの推進と質の高い緑化の増進等を行うことでゼロエミッション東京の実現に寄与する。
- 建築物等における構造の木造化や、内装材及び屋外空間のしつらえの木質化等による国産木材の積極的な利用を、維持管理の観点も考慮しながら検討する。
- 環境問題や環境負荷低減のための取組に触れられるなど、子供や学生の環境意識の醸成に資する取組を実施する。
- グリーンインフラの導入（レインガーデン（雨水浸透）、屋上緑化など多層の緑空間など）や樹木の活用の検討などを行い、環境に配慮した取組を積極的に取り入れる。



さいたま市立大宮図書館

出典：大宮図書館ホームページ (<https://www.omiya-library.jp/>)



子供の環境意識啓発

4. 「智の創造拠点」として持続的な価値の維持向上を図るための取組(官民連携)

- 整備・運営内容について民間事業者から提案を受け、定期借地による都有地活用を想定
- 各機能が相互に連携して「誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』」としての価値の維持向上を図るため、官民連携でマネジメントを行う仕組みを構築
- 具体的には、計画段階から企画・運営内容等の議論も行いながら施設整備を行い、整備後も、時代の変化や多様化するニーズ等に応じた機動的なプログラム提供や運営につなげていく。
- このほか、ワークショップなどの機会も設け、地域の方や施設利用者、子供・若者などと意見やアイデアを交換し、新しい発想を生み出していく。



ワークショップのイメージ

<プロジェクトマネジメントチームの段階別の役割>

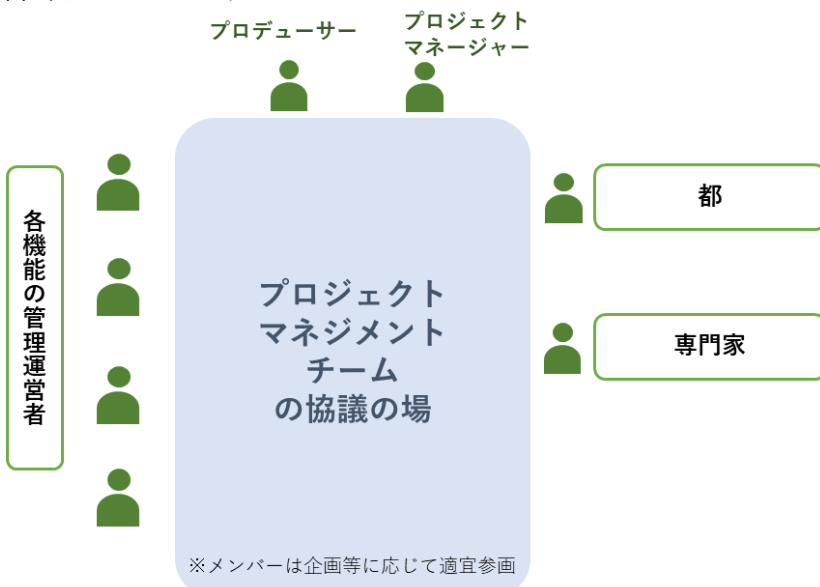
【事業者決定から竣工まで】

計画段階から事業の内容（事業企画、施設計画等）について協議調整し、具体的な計画を策定。状況に応じて、更新を図る

【竣工後（運営）】

運営やプログラム等について協議・調整し、時代のニーズ等に応じた持続的な発展を図る

〔体制イメージ〕



<チームメンバーの役割イメージ>

- プロデューサー : まちの価値を高めるために、各主体の意見を引き出し、取りまとめるとともに、企画の提案及び実現に向けた調整を実施
- プロジェクトマネージャー : まちづくりの将来像を実現するために、都施策全般の観点から関与
- 各施設の管理運営者 : 効果的な施策実現の観点からの計画検討や単独・連携事業の企画立案・検討に関与
- 専門家 : (例) 子供、図書館、芸術・文化、エンターテインメント等、専門的な立場から助言
- 都 : 都施策の観点から関与

付 属 資 料

○神宮前五丁目地区の現状

旧こどもの城（正式名称：国立総合児童センター） ※平成27年閉館

- 屋上遊園、音楽スタジオ、造形スタジオ、劇場等が設置
- 様々な遊びのプログラム（例えば造形のワークショップ等）を開発し、遊びや体験を通じた学びの機会を提供

（青山劇場） ※平成27年閉館

- 児童に限らず大人に対しても質の高い芸術活動を提供（1,200席）

（青山円形劇場） ※平成27年閉館

- 児童に対して“見せ”あるいは“きかせる”と同時に、自ら“演じ”あるいは“参加する”場の提供
（収容人員は約150人～376人）



青山劇場



旧こどもの城

国連大学

- 東京に本部を置く国連による大学であり、国連のシンクタンクとしての役割も有する。
- 貧困、人権、福祉、環境等の世界の諸問題をテーマに、世界の研究機関と連携しながら研究及び政策提言を行う。
- 様々な学術会議、セミナー、ワークショップ等が開催できる施設を完備
 - ウ・タント国際会議場（3階：収容数 364席）
 - エリザバス・ローズ国際会議場（5階：収容数 110席）
 - 小会議室（5階：収容数 各25席）
 - レセプション・ホール（2階：120-150席）
 - 国連大学ライブラリー（2階）



国連大学

コスモス青山

- 東京ウィメンズプラザ及び賃貸オフィス・店舗から成る複合ビル
- テナントには東京都住宅供給公社の他、民間企業のオフィス、店舗等17社が入居



(東京ウィメンズプラザ)

- 男女平等参画に関する講座・研修、情報提供、相談等の事業、配偶者等からの暴力被害相談、被害者の保護及び支援等の事業を実施
- 活動場所の提供（貸出施設 円形ホール（約533㎡。1階/174席、2階/72席）、視聴覚室、会議室等）



(はたらく女性スクエア)

- 令和6（2024）年9月、東京都労働相談情報センターの新しいランチとしてオープン
- キャリア相談や労働相談などを通じて、女性の活躍をサポート



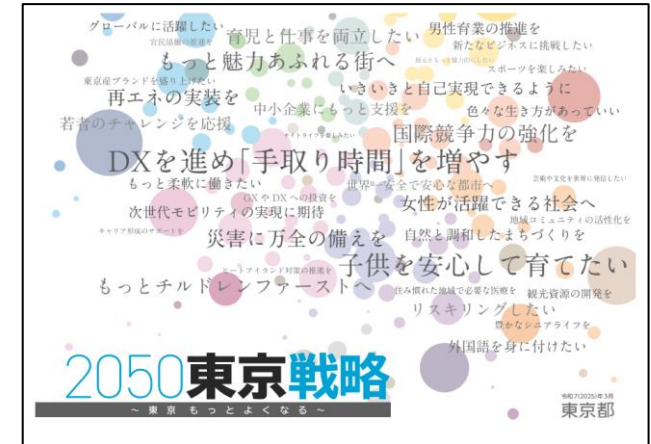
(青山スタートアップアクセラレーションセンター)

- 創業予定者や創業間もないスタートアップ企業を対象としたインキュベーション施設
- コワーキングスペース、先輩起業家等のオフィス及び宿泊施設から構成されており、アクセラレーションプログラム受講者が事業の成長に集中できる環境を提供

○将来像に関連する都の基本計画等

＜2050東京戦略～東京もっとよくなる～（東京都 令和7（2025）年1月）＞

都は、すべての「人」が輝き、一人ひとりが幸せを実感できるような「成長」と「成熟」が両立した「世界で一番の都市・東京」の実現するための柱の1つとして「ダイバーシティ」を掲げており、「人への投資」を一層加速させ、「人」の力を高め、引き出し、一人ひとりが主役になる社会を創り上げていくこととしている。



＜東京文化戦略2030（東京都 令和4（2022）年3月）＞

都は、目指す2040年代の東京の姿として、都民の誰もが身近に芸術文化に触れることのできる環境が整い、芸術文化で躍動する都市東京の実現を目指すこととしている。



＜こども未来アクション2025（東京都 令和7（2025）年1月）＞

都は、子供政策強化に向けた重点アクションの柱の1つとして「多様な主体と連携し、子供の笑顔を育むアクションを展開」を掲げ、官民が一体となって、子供の社会参画の機会を創出するなど、社会全体で子供を大切にする気運を醸成していくとともに、組織横断の取組として、学校内外で様々な体験活動を創出していくこととしている。

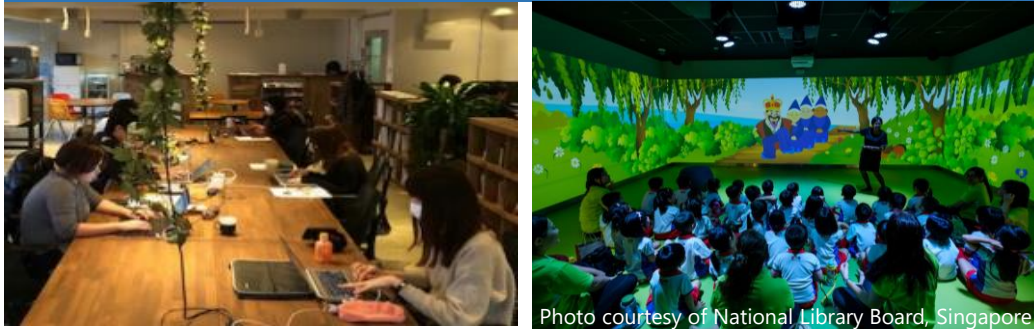


付属資料

○創造・交流図書館等と各機能の連携イメージ（例）

創造・交流機能

各機能をつなぐ創造・交流機能



物語を体験する劇場や舞台関連クリエイターが集まる場や、絵本や劇・舞台の世界をデジタル・AR等で体験する機会の創出により、訪れる人の知識、創造性及び好奇心を育む

劇場

原作展示や時代背景等に触れられるイベント



原作展示や時代背景等に触れられるイベントにより演劇への興味・関心や知的好奇心を喚起

起業支援機能

子供等を対象としたアントレプレナーシップ醸成イベント



ゲーム形式で起業の流れを学ぶ等、遊び感覚で起業への関心を喚起

都が支援するスタートアップ企業の新技術の体験、発信の場



製品・サービスの検証データや利用者の声を、品質の改善・向上に活用

女性活躍支援機能

社外メンター等による学生や子供向け講座の開催



各施設の連携により、拠点を訪れた全ての人が、個々の課題に寄り添った幅広いアドバイスを得ることが可能

若年層のキャリア意識形成のためのワークショップの開催



長期的に働くことの重要性や長期的な働き方のモデルを提示することで、早い段階からキャリア意識を形成